地域医療部会 20 周年に寄せて

地域医療部会長（医療法人同仁会理事長）　難波　義夫

20 年前、新医師臨床研修制度が始まり、岡山大学を中心に NPO 法人岡山医師研修支援機構が立ち上げられ、我々中小の病院もメンバーになってくださいとの要望がありました。その、立ち上げの会に出て一番に心配したことは、研修医はこれから大病院にしか行かなくなるよねということで、中小の病院には医師が来なくなってしまうという不安しかありませんでした。そこで、有志数人が集まり「どうする？」ということで定期的に情報を交換することにしたのが、この会のはじまりで、毎月、岡大の会議室をお借りして 20 年間続いています。途中、中小病院の院長等だけでなく、大学の先生、大きな病院の院長、県を中心に行政の方、マスコミ、弁護士、社会保険労務士など多くの方々の参加により多方面からの意見を聞くことができるようになりました。大きな功績は、当時の医学部長からの提案で若い医学生を早い時期に現場を見させたいということで中小の地域の医療機関で実習を始めたことでしょう。現在も継続して大学にも貢献できていると思います。しかし、20 年前の心配であった地域への医師派遣の問題は地域枠の医師派遣はあるものの、何も解決していません。

この 20 年間の中で 10 年間県病院協会会長職を務めたことで、行政、大学、大病院の事情、思い等を肌で感じることができました。新しい地域医療構想が始まっていますが、地域ごとに事情が違う中、また、人口減少が進む中、問題は多岐にわたりスムーズに進みそうではありません。要望の主張だけでなく、痛みを伴った対応も求められるのではないでしょうか。その中で地域医療部会がどのように関わっていけるのでしょうか。